

情報交差点・心と心の交わり

あじまへ

大宜味村教育委員会

電話 44-3006

FAX 44-3020



環境部長賞

やんばる・西表島図画コンクール

大宜味中

2年 高澤和さん

1年 榊田琉太郎さん

2月3日（月）、沖縄県庁県民ホールにおいて、令和6年度世界自然遺産普及啓発事業「やんばる・西表島図画コンクール」表彰式が行われ、大宜味中学校1年生の榊田琉太郎さん、2年生の高澤和さんが環境部長賞を受賞し、表彰されました。

沖縄県では、世界自然遺産「奄美大島、徳之島、沖縄島北部及び西表島」の次世代への継承のため、地域の児童生徒の貴重な自然環境に対する理解や関心を高めるとともに、広く世界自然遺産の認知度向上を図ることを目的に世界自然遺産普及啓発事業を実施しており、その一環として、遺産地域を含む圏域の小中学生を対象に「やんばる・西表島図画コンクール」を開催しています。

琉太郎さんは夜の森に佇む2羽のヤンバルクイナ、和さんはデイゴの樹に止まるノグチゲラを描き、素晴らしい賞を受け取ることとなりました。

表彰式を終え、和さんは「色合いがきれいなのでノグチゲラとデイゴを描いた。受賞はとても驚いたけれど嬉しかった」と喜び琉太郎さんは「ヤンバルクイナは実際に夜の森で観察した個体を描いた。今回受賞出来て嬉しかった。来年は県知事賞を目指したい」と意欲を燃やしました。

和さん、琉太郎さん、受賞おめでとうございます！！

自分にできることを信じて 何でも成し遂げられる。受験生を応援！！



2月14日（金）、大宜味中学校3年生に「大宜味中3年生応援隊」から、高校受験に向けて頑張る3年生にサプライズプレゼントが手渡されました。

いつも明るく朗らかで、後輩たちを引っ張ってくれていた3年生たちも春にはそれぞれの夢に向かい、高校受験に挑みます。そんな3年生たちの頑張りを後押ししたいと、今年も大宜味村社会福祉協議会の島袋経子さんが発起人となり、役場の有志、大宜味村民生委員・児童委員協議会、大宜味村社会福祉協議会が集まり準備を進めてきました。

サプライズプレゼントの中身はシーちゃんクッキー（金城朋美さん）、シークワサーゼリー（松本安子さん）、カップケーキ（新城喜代美さん）、鬼ムーチー（宮城みゆきさん）、受験にきっと勝つという願いが込められたキットカットと一人一人に向けた応援メッセージ（大宜味村民生委員・児童委員協議会）、手書きのネームプレート（新城あゆみさん）でどれもみんなの気持ちが込められた手作りの一品。

民生委員の与那嶺照子さんは「みんなそれぞれの夢に向かって頑張っていて欲しい。私たちはみなさんのことをいつでも応援しています」と激励。プレゼントを受け取った平良夏音さんは「これを食べて受験合格できるように、頑張ります！」と意気込みました。

応援隊だけでなく、村民みんなが応援しています！夢に向かって頑張れ！！3年生！！

★ 大宜味村スターリースカイ～3月のオリオン～のご案内

★ 教育委員会主催による今年度最後の星空観察会を下記日程で予定しております。参加希望の方は教育委員会までお申し込みください。

★ 日時：令和7年3月29日（土）19時～21時

★ 場所：大保ダム ※雨天時はビジターセンター（プラネタリウム見学）

★ 対象：大宜味村民（未成年者は保護者同伴）

★ 募集定員：20名 ※定員に達し次第、締め切りますのでご了承ください。

★ 参加費：100円（保険料）

★ 申込方法：3月27日（木）までに100円を持って、教育委員会窓口で申込書の記入をお願いします。

★ お問い合わせ：大宜味村教育委員会 ☎0980-44-3006（担当：野里）

各区に掲示されているポスターも確認して下さい♪

大寒波にも負けない熱い友情… 令和6年度「体験の翼」西会津町訪問



2月7日（金）～10日（月）の3泊4日、「体験の翼」交流団28名（児童生徒21名、引率7名）が西会津町へ冬季交流に行きました。

出発前日からの大寒波（会津地方は大雪）で1日目は西会津町までの高速道路や国道が通行止めとなり、まさかの東京泊となり、1日遅れでの交流となりました。

短い交流期間でしたが、徐々に再開した友達との食事や宿泊、温泉を楽しみ、雪遊びで盛り上がり、雪深い西会津町を満喫する児童たち。

大変な思いもしましたが、遊びも学びも全力で取り組み、思い出深い交流となりました。



昔の人たちの道具を使って現在の便利さを知る 小3民具体験



2月4日（火）、大宜味小3年生が教育委員会の森下愛子さんを講師に昔の道具を実際に使って学ぶ民具体験をしました。

電気・水道・ガスが揃っている現在とは違い、昔は洗濯やご飯を作ることもひと手間かかっていました。今回は炒った大豆を石臼でひき、きな粉にする作業や寒い中、洗濯板を使ってのぞうきん洗い、脱穀、精米作業も行いました。実際に体験することで昔と今の暮らしの便利なこと、困ったところをあげ、それぞれの違いを知るいい機会となりました。

地域の宝を再発見!? 城跡から昔のロマンにふれる 根謝銘城跡講演会&散策

2月22日（土）、大宜味村農村環境改善センターにおいて第1回大宜味村文化講座が開催され、合わせて午後からは令和6年度ぶながやの里生涯学習講座⑥「根謝銘城跡散策」が行われました。

文化講座では琉球大学の後藤雅彦先生が「根謝銘城跡をめぐる考古学」と題して大宜味村謝名城区にある根謝銘城跡のこれまでの考古学調査の経緯や試掘調査から見てきたことを発表。根謝銘城は「土から成るグスク」であり、城跡が地域の祭事にも使用されている地域に根付いた城跡であることを話しました。



後藤先生は「根謝銘城は地域の人の拠り所としてのグスク」であり、重要な遺跡だからこそ地域で保存・活用していくことが必要ではないかと提案。質疑応答もたくさんあり、会場は大いに盛り上がりました。



午後は後藤先生、教育委員会の寄合龍己さんの案内で2班に分かれ、根謝銘城跡を散策。堀切や石積み、発掘跡などを見学。実際に現場に行くことで、城跡から当時の様子や状況などに想像を膨らませ、思いを馳せました。

図書室情報 No.67 2025年（令和7年）3月

大宜味村図書室（旧議会議棟：村史編纂係内）
大宜味村字大兼久 157番地 0980-44-3009

3月図書室カレンダー 閉室日：

日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23 30	24 31	25	26	27	28	29

- 新着図書**
- 『知ってますか？「近い昔」の沖縄..33話』大城将保 / 著 高文研
 - 『増補改訂 日本の淡水魚』細谷和海 / 著 山と溪谷社
 - 『ロジカルダイエット 3か月で「勝手に痩せる体」になる』
 - 『爆弾』呉勝浩 / 著 講談社 清水忍 / 著 幻冬舎
 - 『藍を継ぐ海』伊予原新 / 著 新潮社
 - 『D'TOPIA』安堂ホセ / 著 河出書房新社 などなど

利用状況累計

○来室者数…のべ3,845人	○2月の統計(2/25まで)
○貸出冊数…6,351冊	○来室者数…のべ42人
○登録者数…186人	○貸出冊数…56冊
	○現在の蔵書数…8,633冊

お知らせ

今年度の図書リクエスト受付は終了いたしました。リクエスト希望の方は、来年度の受付までしばらくお待ちください。

児童生徒の成果を見る、讚える 大宜味村教育の日 児童生徒発表・表彰式



2月2日（日）、大宜味小・中学校において大宜味村教育の日 児童生徒発表と表彰、一斉授業参観が行われました。

児童生徒発表では小学校3年生が総合の授業で学んだ大宜味村のチョウチョについて姿や食草のクイズを出しながら楽しく紹介。中学生は1年生の大湾光さんが芭蕉布の柄の意味や歴史について発表、2年生は塩屋湾でスギの養殖をしている琉宮水産で職場体験をしたメンバーが1日の仕事の流れや大変さ楽しさを発表しました。



児童生徒表彰では大宜味村児童生徒表彰規則のスポーツ部門、文化部門において優秀な成績を収めた個人・団体合わせて計53名が表彰されました。

行って、見て、触って 昔の人の暮らしを知る 小4やまししがきめぐり

2月12日（水）、大宜味小4年生が教育委員会の宮城光一さん、森下愛子さんの案内で塩屋富士周辺のやまししがきめぐりをしました。



道中に現れる植物やマンゲースの巖などを確認しつつ、声掛けをしながら進み、やまししがきに到着。岩や崖などもともとある地形を使ったり、石を運んで巧みに積んだり、今でも残るやまししがきに触れることでかつてこのような山の中まで人々の暮らしがあったことや、ここまで石や道具を運ぶことの大変さを身をもって知ることができました。



地元の高校生が提案、熱い思いが実る ホントウアカヒゲ、村の鳥に制定

2月17日（月）に新たに「ホントウアカヒゲ」が村鳥に制定され、昨年4月に友寄善景村長にホントウアカヒゲの制定を提案していた辺土名高校サイエンス部部長の仲宗根諒大さん、高江洲奈教頭先生、顧問の徳元将太郎先生が19日（水）、大宜味村役場に招かれ、友寄村長から制定の報告を受けました。

友寄村長は「以前からホントウアカヒゲは村の鳥にふさわしいと思っていた。貴重な鳥でもありながら、ガードレールに止まっていたり、民家に巣を作ったり、私たちの身近にいる鳥。仲宗根さんの卒業前に制定をできて良かった。親しみのあるメジロ、貴重なアカヒゲ2種ともにPRしていきたい」と意気込み、仲宗根さんは「村鳥の制定ありがとうございます。3年間行ってきた研究、自分たちの申請が実を結んで嬉しい。制定を期に村だけでなく全国、世界にもアピールしていきたい」と喜びました。

新たに村鳥に追加された「ホントウアカヒゲ」は昨年9月に発行された日本鳥類学会の鳥類目録で独立種となり、やんばる固有種として認定。これで国頭村のヤンバルクイナ、東村のノグチゲラとともにやんばる3村で固有種3種が村鳥となります。



大宜味村史「通史編」「資料編」が発刊されます！

これまで村や村民の皆様が蓄積してきた資料やデータを網羅した素晴らしい本になったと思います。長年に亘り編纂作業に力を貸して下さった村民や関係者の皆様に感謝申し上げます。
「通史編」、「資料編」は、5月以降に販売する予定です。詳細が決まり次第、お知らせしたいと思います。一足先に目次をご紹介します。

『大宜味村史 通史編』

目次

第1章 自然の概況
第1節 地形
山地位部 丘陵部 低地部
第2節 地質
押川層 喜如嘉層 塩屋層 玉辻山層
第3節 植物
第4節 動物
第5節 自然（総括）一多様な自然環境と生物相一

第2章 先史古代
第1節 先史時代
第2節 グスク時代の遺跡
第3節 国頭按司と根謝銘城
第4節 根謝銘城遺跡と遺物

第3章 近世
第1節 大宜味間切の創設
第2節 番所機構と間切役人
第3節 土地制度
第4節 租税制度
第5節 農政と林業
1. 間切の農政指導
2. 間切の山林制度
第6節 村行政と地組（引）制度
第7節 間切の疲弊と身売り
第8節 異国船の来琉
切支丹宗門改めと差出し ベリー来航と塩屋湾調査

第4章 近代
第1節 廃藩置県と土地整理
1. 県政と旧慣制度の「温存」
2. 土地整理事業
3. 教育
第2節 村政の展開
1. 町村制の施行
(1) 地方制度の推移
(2) 村役場の移転問題
2. 慢性的不況
(1) 蘇鉄地獄
(2) 大兼久の漁業
(3) 大宜味村経済更生計画
3. 出稼と大工
4. 村政革新運動
5. 農林水産業
6. 教育
7. 交通・通信の発達
第3節 戦時下の村政
1. 戦時下の村民生活
2. 沖縄戦と村民犠牲

第5章 戦後
第1節 戦後の村政
戦後の占領行政 辺土名市の誕生 本土より6ヵ月早い婦人参政権 大宜味村復活 疎開者で膨れた人口 警察隊長、ラプレス海軍中尉 村制の推移 旧日本円をB軍票、新日本円に切換え 食糧確保の農作業 米軍による食糧と衣類の無償配布 専制的な米軍の衛生管理 DDT革命 戦後の医療体制 分村陳情の却下 工作隊時代 通信・交通 復帰運動
第2節 戦後の教育
部落単位の学校 8・4制から6・3・3制へ 開校1年で消えた実業学校 辺土名高校の誕生 男子部は辺土名、女子部は喜如嘉 男女共学と村内誘致 育英会 青年会活動 婦人会活動 社会教育学級 公民館
第3節 開拓移民
1. 八重山契約開拓移民
2. 八重山計画開拓移民
3. 江洲開拓移住
4. 戦後開拓移住関係の記録
第4節 戦後の産業
1. いち早くなされた農業基盤整備 2. サトウキビ
3. バインアップル 4. みかん 5. い草 6. 畜産
7. 水産業 8. 芭蕉布 9. 陶業

第6章 復帰後
第1節 農林水産業
1. 農業全般の状況 2. シークワサー 3. 畜産業 4. 林業 5. 水産業
第2節 商工業
第3節 観光業
第4節 福祉
1. 大宜味村社会福祉協議会 2. 児童福祉 3. 障がい者（児）福祉 4. 高齢者福祉 5. 保健医療関係 6. 国民健康保険
第5節 教育・文化
1. 小学校・中学校の沿革 2. 幼稚園教育 3. 幼保連携型総合施設整備（おおきみこども園）設置の経緯 4. 中学校の統合 5. 小学校の統合と学校の移転 6. 生涯学習について 7. 辺土名高校
第6節 全国規模のスポーツ大会の開催
1. 若夏国体 2. 海邦国体 3. 美ら島沖縄総体 2010 ポート競技大会
第7節 生活環境
1. 塩屋大橋 2. 農村総合整備モデル事業 3. 道路整備 4. 簡易水道事業 5. 下水道の整備 6. 屎尿・ごみ処理の推進
7. 火葬場の整備 8. 消防・救急関係
9. 防災・交通安全・防犯対策
10. 住宅地の整備・確保 11. 情報通信
第8節 村政の進展
1. 村制90周年・100周年・111周年記念
2. 新庁舎建設 3. 公有水面埋立事業
第9節 その他
1. 大保ダム 2. 世界自然遺産登録
3. 新型コロナウイルス感染症について

第7章 民俗
1. 大宜味村のマク（マキョ）とムラ・シマ
2. 大宜味村のマクの分布 3. 大宜味間切・村の変遷 4. 間切役人 5. 大宜味間切内のノロ管轄 6. 大宜味村の民俗

第8章 方言
第1節 大宜味村の方言の概要
第2節 大宜味村各集落（シマ）の方言一覧表について
第3節 大宜味村及び各字の方言の特徴

第9章 災害
第1節 自然災害
1. 身近に起こり得る自然災害
2. 史料に見る大宜味村の自然災害
3. 土砂災害と背中合わせの大宜味村の生活環境
4. 大宜味村で過去に起きた土砂災害
第2節 シャーロット台風爪痕
1. 気象状況 2. 地誌にみる被害状況
3. 近年の土砂災害
第3節 地震と津波
1. チリ地震津波 2. 押し寄せる軽石一福徳岡ノ場の海底火山噴火
第4節 水害・高潮など
第5節 河川での水難事故
1. 平南川での遭難事故 2. 小さな川の危険性
3. 安全な川遊びのために

第10章 文化財
第11章 各字の概要
第12章 共同売店
第13章 各種団体
第1節 青年会
第2節 婦人会
第3節 老人クラブ
第14章 郷友会
第1節 郷友会
第2節 海外と沖縄を結ぶ動き

附録
年表／歴代村長、助役・副村長、収入役、教育長／歴代議長、副議長、議員／世帯数・人口（男女別）／歳入決算額、歳出決算額

『大宜味村史 資料編』

目次

『大宜味村誌』（昭和九年刊）
第一章 大宜味村沿革概要
第一節 本村村域の変遷
第一回 田港間切時代
第二回 大宜味間切時代
第三回 大宜味間切時代
第二節 村勢の伸張
第三節 村政治革
第二章 教育
第一節 藩政時代の教育概観
第二節 廃藩後の教育概観
第三節 本村小学校教育沿革大要
第三章 宗教
第一節 固有の宗教
第二節 その他
第四章 風俗
第一節 神事
第二節 人事
第三節 迷信
第四節 年中行事
第五章 言語
第六章 歌謡
第七章 我が村の名所旧跡
第八章 口碑伝説
第一節 人物伝
第二節 土地に関する口碑伝説
第三節 小話

大宜味のウミイ
[追補] 各字に伝わるウミイ
近世期の資料
1「球陽」 2「琉球国高究帳」 3「琉球国由来記」
4「琉球国旧記」 5「御当国御高並諸上納里積記」
6 文子福地仁屋より買入仕明証文並手形写
7 本琉球内大宜味間切城村人数改帳
[追補] 己年 大宜味間切屋嘉比村切支丹家門改帳
8 宮城大屋子宿移之時下人並種々日記
9 元祖江宿移之時現在取帳
10 戊午冠船御申請の時の米銭御借入之儀
11 田畑譲り渡しについて口上覚
12「近世地方経済史料」
13 大宜味間切下知役のこと
14 山城家文書 15 字饒波根神屋文書

明治期の資料
1 惣耕作当万控帳 2 琉球藩雜記
3 沖縄旧慣地方制度 4 明治十三年の大宜味間切村名
5 上杉県令巡回日誌 6 津口手形 7 大宜味間切内法
8 明治二五年頃の大宜味間切要覽
9 沖縄県大宜味地方旧慣問答書
10 大宜味間切村字名
11 大宜味間切饒波村反別筆数取調
12 仙山開墾許可及び国有林払下げの件
大正・昭和期の資料
1 天野銀助覚書 2 大宜味郵便局移転資料
3 大宜味村政革新同盟関係資料
4 大宜味村経済更生計画
5 大宜味尋常高等小学校の食物調
6 敗戦直後の饒波部落日誌

天野銀助の日記抄録
村会覚手帳（大正九年～昭和七年）
日記（大正十一年～昭和二十一年）
大宜味村関係新聞記事集成
明治三一年～昭和一九年
大宜味村の人物 一百人の足跡一
辞令書など 明治十二～昭和十九年（50点）
大宜味間切図・村全図（26点）

※紙面の関係上、節以下の項目を省いている箇所があります。



村史編さんだより

第167号 2025年8月1日 大宜味村村史編纂係44-3009

共同売店ファンクラブの活動に県より奨励賞

共同売店ファンクラブ真喜志敦代表より、同クラブの活動が県知事より奨励賞を受けたという嬉しい知らせが届きました。

同クラブは、父の故郷田港の共同売店がなくなったことをきっかけに、県内各地に残る共同店、共同売店を巡り調べるうち、「これは次世代に残すべき沖縄の宝だ」と確信し2004年に設立されました。

設立当初から各種メディアでの情報発信、共同売店マップの作成、写真展、バスツアー等のイベント開催、視察調査の支援など多彩な活動を行っており、その長年に亘る活動が地域活性化に貢献した功績が認められ今回の受賞となりました。

近年、共同売店は減少しているものの、単なる買い物場ではなく、見守り合い、交流の場となるなど、福祉的な機能も持ち合わせ、研究者や全国の高齢・過疎に悩む地域から注目が集まっているとのことで、今後も共同売店を拠点とした地域発展のために頑張っていきたいという思いを話されました。

◎図書室で閲覧できる関係書籍 「沖縄大学地域研究ブックレット7（叢書15巻）」、「共同売店—ふるさとを守るための沖縄の知恵—」宮城能彦 2009年、「季刊カラカラ別冊 沖縄で100年続くコミュニティビジネス 共同店ものがたり」2006年



2月19日副村長を表敬訪問

村史編さん事業完了のご報告について

平成24年度からスタートした新大宜味村史発刊計画においては、これまで、「シマジマビジュアル版」（平成25年度）を起点に分野を分けて8篇の村史発刊を行ない、最終年度となる今年度は「大宜味村史 資料編」に続き「大宜味村史 通史編」発刊をもって事業は完了となります。

これまでの足あとを振り返ると、2010（平成22）年に「準備室」が置かれた旧庁舎から2012（平成24）年に本事業はスタートし、2018（平成30）年に旧大宜味小学校へ、2023（令和5）年には旧議会棟へと、二度の引越しを余儀なくされ、その度に膨大な書籍や資料、それらを納める多数の本棚等と共に、気の遠くなるような引っ越し作業とその整理に時間を取られ、最終年となる本年は、資料編、通史編の編さんの作業を同時進行で行うという厳しい制約の中で、集大成となるこれらの編さん作業に十分な時間がかけられなかったことは心残りながら、「今できることを精一杯全うする」という姿勢で粛々と取り組んで参りました。

本事業は当初から“村民のための村史・村民と共につくる村史”を標榜し、地域の方々には時間のかかる調査に何度もご協力をいただき、村民のお力添えなくして本事業を成し遂げることは叶いませんでした。ご協力をいただいた諸先輩方の中には、既に彼岸へと旅立たれた方もおられ、これらの調査は、あれが最後のチャンスだったことを思えば、改めて感謝の気持ちで胸が満たされます。

薄れゆく地域の繋がりを憂える声が聞かれる昨今、村民と共に編まれたこれらの村史は、時代が進むほどにその価値を増し、先人が遺した“大宜味村の宝物”は、必ずや新しい時代の展望に光を投げかけてくれるでしょう。沖縄学の父伊波普猷は「深く掘れ己の胸中の泉、余所たゆて水や汲まぬごと」と遺しました。村史を手取ることで、今一度、自らの原点を再確認し、先人から渡されたバトンの豊かさ、奥深さに多くの村民及び関係者が触れていただくことを祈念します。永年に亘るご理解・ご協力に心から感謝します。

政信教育長のあじま～コラム



「チャレンジ精神」

大宜味中学校で昨年から文部科学省の研究指定を受けていた、特別の教科道徳の研究が終わりました。大宜味中学校の実践で特筆すべきことは、通常なら学級担任が行う道徳の授業を校長、教頭をはじめ全職員がローテーションを組んで授業に臨んだことです。

今回の研究を通して、教諭個々の授業力の向上はもちろん、組織力の向上にもつながったものと思っています。学校にとって研究指定は特別なものがあります。私が教職についた頃は研究指定というと、上から無理矢理押し付けられた官制研修として、現場では嫌がる傾向がありました。人によって考え方は様々でしょうが、私もそうだったようにできるだけ難儀なことはしたくないと避ける傾向が大方だったのではないのでしょうか。

ある尊敬する先生との出会いで少しは考えが変わりました。その先生は若い時から人事異動の際は研究指定校を選んでいました。また、研究授業などは率先して引き受けていました。「自分に声がかかったら、与えられたチャンスだと思え」ということです。私は自信がなく全く真似をすることはできなかったのですが、その先生を間近に見て近づくとはできたと思っています。

脳科学者の茂木健一郎氏によると、「人間の脳は、本来怠けものにできており、楽をすることを好むので、敢えて意識して物事に挑戦しないと直感力や創造力など大切な能力を育てることはできない」ということだそうです。難儀してやり遂げて創りあげた成果は自信を与えてくれます。力量が高まります。

本村児童生徒の学力向上推進の目標に「チャレンジ精神を育む」ということがあります。これからはいろいろな事がやってきます。チャンスだと捉え、前向きにチャレンジしていくことが大切ではないかと思っています。

今月の生きもの

ホントウアカヒゲ：ツグミ科

こんにちは！私たちホントウアカヒゲです。

今年2月、大宜味村の鳥として新たに仲間入りすることとなりました。これまで奄美群島などに分布するナミアカヒゲの亜種とされていたのですが、昨年9月に独立し、ホントウアカヒゲとして沖縄県の新たな固有種となりました。私たちは国指定の天然記念物であったり、国内希少野生動植物種であるのだけれど、実はみなさんも身近にいる鳥。これから繁殖期に入る私たちのバラエティーに富んだ美しいさえずりがみなさんの耳にも聞こえてくるはず。

オス



メス



撮影：村山望

1日（土）県立高校卒業式

3日（月）区長会

4日（火）県立高校入試 ～5日

5日（水）（中）小6体験入学

7日（金）中学校卒業式

17日（月）（園）修了式（5歳児）

18日（火）県立高校合格発表（小）卒業式

19日（水）小中学校 修了式

離任式・PTSA送別会

20日（木）春分の日

27日（木）定例教育委員会会議

28日（金）（園）修了式（0～4歳児）

31日（月）退職者辞令交付式

3月の行事予定

3月29日



マリモの日